CSR報告書2009ダイジェスト

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2009 DIGEST

Anritsu

目次

トップメッセージ

誠と和と意欲 ―― 01

アンリツグループ CSR の考え方

CSR 課題の重要性測定と「達成像」 ―― 04

事業概要

はかる、みまもる。あんなところにもアンリツ ―― 06

特集

Key Word1 はかる技術で社会に貢献 ―― 08
Key Word2 従業員の成長実感 ―― 10
Key Word3 ライフサイクルシンキング ―― 12
Key Word4 地域との密着 ―― 14

巻末言

担当執行役員メッセージ・会社概要 ―― 16
第三者意見・編集後記 ―― 17

アンリツでは、CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)を「企業活動のプロセスに社会的公正性や環境への配慮などを組み込み、ステークホルダー(株主、従業員、顧客、環境、コミュニティなど)に対しアカウンタビリティを果たしていくこと。その結果、経済的・社会的・環境的パフォーマンスの向上を目指すこと」と定義しています。

編集方針

今回(2009年版)からアンリツのCSR活動に関する情報は、ホームページで詳細を報告します。また、本冊子(ダイジェスト版)では、社会およびステークホルダーの視点で重要な課題であり、かつアンリツにとっても重要な課題を4つのキーワード(P.4参照)に絞り込み、それらに対する主な取り組みを特集のかたちで分かりやすく報告することを基本としています。

アンリツのCSR活動報告の詳細は、下記ホームページでご覧いただけます。
http://www.anritsu.co.jp/AboutAnritsu/csr/

＊CSR報告では、アンリツの活動のうち、社会および環境との関わりを中心に報告しています。(財務面の詳細については、ホームページ http://www.anritsu.co.jp/J/IR/ またはアニュアルレポートをご参照ください)

＊環境に関する詳細な情報は、下記ホームページの「地球環境保護の推進」をご覧ください。
http://www.anritsu.co.jp/AboutAnritsu/csr/

[参考としたガイドライン]
GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006」

活動報告対象期間
2008年4月1日～ 2009 年3月31日
(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます)

活動報告対象組織
報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。
以下のルールで区別しています。

■「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体の場合
■「アンリツ(株)」
記事内容がアンリツ(株)単体の場合
■「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場合

発 行 日: 2009 年7月14 日
お問合先: アンリツ(株)
コーポレートコミュニケーション部
CSR 推進チーム
T E L: 046-296-6514
F A X: 046-225-8358
U R L: http://www.anritsu.co.jp/

(次回は2010年7月に発行予定です)

トップメッセージ

誠と和と意欲

―時代を越えて、社会に求められる存在であるために―

Sincerity, Harmony and Enthusiasm

「誠と和と意欲」を持って他社にない高度な技術力を磨く

百年に一度といわれる経済危機の中、当社も深刻な事態に直面しています。このような時こそ、アンリツの真価が問われると考えています。

アンリツは、幾多の困難を乗り越え、時代に応じて形を変えながらも、一貫して、情報・通信にかかわる仕事をしてきました。近年は通信分野の計測器を主力分野としながら、光・IP通信システム、光応用精密計測機器、産業機械など、「はかる」技術を核としたさまざまな分野が育っています。

アンリツにとって最大の社会的存在意義は、「オリジナル&ハイレベルなサービスと商品の提供」を通じて「安全・安心で快適な社会」の構築に貢献することです。それを可能にするコアテクノロジーが、長年にわたって蓄積され、深く根を張っています。この技術力が、社会から尊敬され、企業として存続を望まれる基本であると考えています。

114年の歴史を紡いできたアンリツのDNAには、わたしたちの決意にあたる言葉「誠と和と意欲」が刻まれています。アンリツが技術に対して高い意欲を持つのは当然ですが、それに加えて、あらゆることに誠心誠意を尽くし、「和」を大切にする社風が伝統になっています。

この「オリジナル&ハイレベル」と「誠と和と意欲」は、いずれも経営理念や企業行動憲章の中に明記され、従業員の行動のよりどころとなっています。

違いを認めつつ調和をはかるグローバル化の新ステージ

アンリツは、グループ全体の売上で半分以上、主力の計測器分野で約７割が海外です。グローバルに事業を展開するアンリツにとって「グローバル経済社会との調和」は欠かせません。

それぞれの地域で認められるためには、当然のことながら「地球環境との調和」が必要です。また、法令遵守・コンプライアンスが基本なのは言うまでもないことで、毎年従業員教育をして意識を高めています。その上で、経済活動を通じて適正に利益を出し、従業員の雇用を守り、地域に対して経済的に還元する、地域密着企業をめざしていきます。

こうしたグローバル展開の中で私が非常に重視しているのが、先ほど言及した「和」です。日本人は争いごとが苦手で、とにかく丸く収めてしまいたいという傾向がありますが、「和」とは、単に仲良くやっていくことではありません。議論の過程ではグローバルに共通した理念や価値観に則って進め、しかし最終的には、国や地域によって異なる事情を認め合い調和をはかる、ということです。

これは雇用確保という基本的な社会的要請に対してもあてはまることです。例えば、今回の経済危機に伴う世界的不況の影響を受け、企業存続のために残念ながら各地で雇用調整を含む厳しい施策を取らざるを得ませんでした。その際も、それぞれの国、地域の事情に応じたぎりぎりの線で企業存続との折り合いをつけることに腐心してきました。

こうして世界各地でグローバルに事業を展開していると、日本との文化の違いによって摩擦が起きることもあります。しかし、そうした文化の違いを受け入れ、多くを学ぶべきだと私は考えます。とくに日本の従業員は「誠」の字にふさわしい勤勉な人が多いのですが、型破りな発想が苦手という一面もあります。そういう能力を海外に学び、うまく組み合わせることができればいいと思います。

アンリツは日本発祥の企業ですから、日本の古き良き企業文化は大切にしていきたいと考えています。しかし“日本流”を押しつけることにならないようにしなければなりません。今後の事業展開上、アジア地域の比重が高まってきますが、同じアジアに住み、価値観も比較的近い者同士、良いスクラムを組んでいけるのではないかと期待すると同時に、「同じはずだ」と思い込まないよう一層の注意が必要です。

こうした考え方の一環として、アンリツではグローバル・コンパクトの活動を重視しており、2007年にはNotable COP（特筆すべき活動報告）に選ばれています。

重要課題を整理しCSRの達成像を改訂

当社は、経営理念と企業行動憲章に示されるCSRの方向性をより明確化・具体化するため、2006年度に中長期の達成像を定めました。

2008年度は、CSRの今後の方向をより明確にするため、CSR全般にわたる重要性測定を行いました。その際、アンリツ社内の目線に加えて、地域社会の特性や時代の変化など、ステークホルダーにとっての重要性の視点を取り入れるようにしました。その結果として、CSR達成像の実現に向けた重要課題が整理され、あらたに見直された達成像がまとまりました。

今回の重要性測定はCSR達成像の実現に向けた第一歩であり、その結果については、社外から見た一般的な側面がやや強く出た印象をもちますが、これからのCSR活動を通じて議論を重ね、アンリツ独自の重要課題を引き続き追求していく所存です。

今回の経済危機の先は回復ではなく、おそらく全く違った世界になるでしょう。従業員の皆さんには「企業としていつまでも同じ形でいられるわけではない」と伝えています。この新しい世界秩序の中でどうすべきかを考え、世の中の変化を捉えて活かし、オリジナリティのある存在になることが重要です。そのために、従業員一人ひとりが各自の「達成像」を描き、希望のシナリオを作って欲しいと要請しています。それらが集結したとき、アンリツの独自性を発揮した「達成像」に到達するものと信じています。

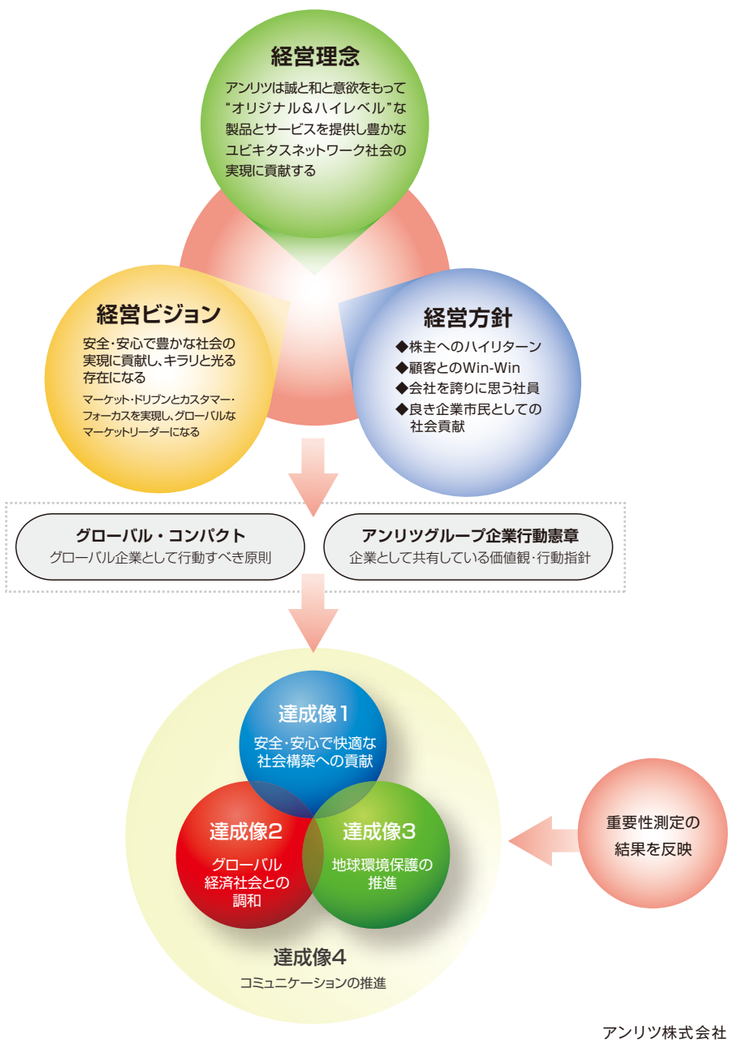
国連グローバル・コンパクト（Global Compact）

アンリツは、国連グローバル・コンパクトの活動に賛同し、2006年3月に参加を表明しました。

※国連グローバル・コンパクト：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。
1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

経営理念・経営ビジョン・経営方針

アンリツは、経営理念・経営ビジョン・経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示すグローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。



アンリツ株式会社
代表取締役社長
戸田 博道

アンリツグループ CSR の考え方

CSR課題の重要性測定と「達成像」

重要性測定および達成像の詳細については、アンリツWebサイト「CSR情報」をご覧下さい
http://www.anritsu.co.jp/AboutAnritsu/csr/

「達成像」実現に向けた 12の重要課題と「4つのキーワード」

アンリツは、CSR活動の方向性をより明確化・具体化するための中長期的な計画「CSR達成像」を定めて活動しています。
このたび「達成像」実現に向けて、CSR活動を事業活動と一体のものとして推進し、
中長期的な企業価値向上につなげるため、CSR課題の重要性を測定しました。
下図のような手順に従って、「12の重要課題」を把握し、さらにそこから議論を重ねて、
達成像実現のコアとなる「4つのキーワード」を導き出しました。
特集記事では、この「4つのキーワード」を軸に、アンリツのCSRの取り組みをお伝えします。

アンリツの CSR 達成像

このたびアンリツは、2006年に策定した「達成像」を見直しました。
今後もその実現に向け、マネジメントの推進および
ステークホルダーとのコミュニケーション促進の両面から、
重要課題の取り組みを展開していきます。

アンリツの CSR 達成像

達成像 1	安全・安心で快適な社会構築への貢献
アンリツの姿	アンリツは、オリジナル&ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。
従業員の姿	従業員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の製品・サービスと迅速なサポートを提供している。
社会からの評価	そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつづけ、アンリツブランドの信頼を築いている。

達成像 2	グローバル経済社会との調和
アンリツの姿	アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。
従業員の姿	従業員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで活き活きと働き、成長している。
社会からの評価	そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

達成像 3	地球環境保護の推進
アンリツの姿	アンリツは、環境理念のもと、製品ライフサイクル全体を通じて、地球温暖化防止、循環型社会の形成、地球のクリーン化に取り組む環境経営が定着している。
従業員の姿	従業員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。
社会からの評価	そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

達成像 4	コミュニケーションの推進
アンリツの姿	アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。
従業員の姿	従業員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。
社会からの評価	そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

事業概要

はかる、みまもる。
あんなところにもアンリツ

携帯電話やインターネット、デジタル放送。さらには、道路・河川や食品・医薬品。
アンリツは、さまざまな場面で皆さまの日常の暮らしやビジネスを支え、安全・安心で快適な社会づくりを支えています。

車をはかる

通信対応カーナビ、ETC、タイヤ空気圧監視システムなどのワイヤレスアプリケーションでアンリツの測定器が活躍しています。

携帯電話をはかる

携帯電話の開発・生産や携帯電話ネットワークの建設・保守で電波や信号をはかり、正常に通信できるかどうかを調べます。

ひかりではかる

緑内障診断などに使われるOCT（眼球診断装置）には、アンリツの光デバイスが光源として採用されています。
（アンリツデバイス株式会社）

地上デジタル放送をはかる

地上デジタル放送の電波状況をはかり、正常に受信できるかどうかを調べます。

交通機関や河川をみまもる

道路や河川の状況をリアルタイムに監視できる映像配信システムを提供しています。
（アンリツネットワークス株式会社）

食べものをはかる

レトルト食品などの製造現場で、中に異物が含まれていないかどうかをはかり、食の安全に貢献しています。
（アンリツ産機システム株式会社）

デジタルカメラをはかる

デジタルカメラなどの精密機器の製造現場で、プリント基板上の印刷はんだの状態を精確にはかり、適正に印刷できているかどうかを調べます。
（アンリツプレシジョン株式会社）

ひかりをつくる

光ファイバを伝わる光信号の強さを増加させる増幅器にはアンリツの光通信用デバイスが組み込まれています。
（アンリツデバイス株式会社）

ネットワークをささえる

通信ネットワークを飛び交うデータの交通整理をし、通信品質を向上します。
（アンリツネットワークス株式会社）

ひかりをはかる

光ファイバの断線や傷の場所を高精度に特定できる計測器を提供しています。

Key Word 1

はかる技術で社会に貢献

安全・安心で快適な社会は、見えないものを「はかる」ことから始まる

携帯電話、超高速光通信、デジタル放送など、情報通信ネットワークは、日常生活のさまざまな場面に溶け込み、安全・安心で快適な社会を支える社会インフラの一つとなっています。そのマザー・テクノロジーとなっているのが、アンリツの「はかる」技術です。
アンリツは、ネットワーク上を流れる電波や信号を試験する各種通信用計測器を開発。
コミュニケーションの新たな扉を開く情報通信ネットワークづくりに貢献しています。

確かにつながり、確かに伝わる モバイルコミュニケーションを支える「はかる」技術

1980年代に登場して以来、急速な技術革新が進んでいる携帯電話。現在では、小さなボディにWebアクセス、音楽や動画のダウンロード、さらにはお財布がわりまで便利な機能が満載です。しかもその進化はとどまることなく、光ファイバ並の高速・大容量通信を可能とする次世代携帯通信システム「LTE（Long Term Evolution）」の商用サービスが2010年にも開始されます。

新たな方式の携帯電話が世の中に流通するまで、端末の試作開発、量産、ネットワークの建設・保守などさまざまな段階があり、その各々で正常な通信が行われているかどうかが試験されます。しかし、携帯電話の電波は目に見えません。ここで使用されているのが、アンリツの「はかる」技術です。

アンリツは、人間の目では見えない電波をグラフや波形で表示し、チェックする計測器を提供。試作段階で必要とされる信号づくりから擬似ネットワークの構築、量産段階での製造検査、街中を飛び交う電波の品質調査まで揃えた豊富なソリューションは、さまざまな場面で携帯電話の進化を支え、快適なモバイルコミュニケーションの実現に貢献しています。

海底から家庭に続く情報の道を支える「はかる」技術

インターネットの人気コンテンツも動画に移り変わりつつあり、またテレビ番組を視聴できるサービスも登場しています。こうした高速大容量通信サービスを可能にしているのが、海底から家庭まで張り巡らされた光ファイバです。

光ファイバは折れたり、曲がったりしただけで、信号品質が劣化します。また、夏になるとセミが卵を産みつけるために光ファイバに卵管を差し、断線の原因となっています。しかし、被覆された光ファイバの障害点を見つけ出すのは、人間の目では不可能です。

そこで、アンリツは、数千kmにおよぶ海底光ケーブルから家庭に引き込まれる数十mの光ファイバの障害点を簡単な操作で特定できる各種計測器を開発。海底から家庭に続く情報の道づくりに貢献しています。

まだまだ広がるアンリツの「はかる」技術

食の安全を守る、異物検出技術

異物の混入。ふだん口にする食品では、あってはならない事故です。オートメーション化が進み、毎分100個ほどの商品が流れる生産現場で、いかに微小な異物を見つけるか。食品の安全と安心に直結するこの作業は高い信頼性が要求され、人間の目では不可能です。アンリツ産機システム（株）は、1ミリに満たない金属や骨などを検出できるX線異物検出機や金属検出機などを提供。食卓に安全と安心をお届けしています。

災害から人々を守る、映像配信技術

2008年6月に発生した岩手・宮城内陸地震では、大勢の市民が震災に苦しみました。この地震で心配されたのが、土砂崩れによりできた河道閉塞（天然のダム）の決壊です。しかし、通行禁止区域などもあり、人力で状況を確認することが困難でした。そこで、映像配信技術を有するアンリツネットワークス（株）は、災害対策本部に遠隔監視システムを構築。河道閉塞周辺の状況を見守り続けました。

1 第1回CS Award of the year受賞後の記念撮影(東北アンリツ)
2 小熊執行役員から表彰状を受ける東北アンリツの従業員代表

Key Word 2

従業員の成長実感

CS報奨制度、国内グループ導入から1年

アンリツは、従業員が仕事を通じて成長を実感できる環境づくりをめざしています。その一環として、従来から社長賞、営業表彰、功績表彰、特許表彰などの表彰制度を設けていますが、2008年、新たな報奨制度として「CS Award」を導入しました。この制度が、それぞれの立場でお客さま満足(CS)の向上に取り組む従業員の励みとなり、それがまたCSにつながることで、お客さま・従業員・アンリツがともに満足できる関係を構築・維持することをめざしていきます。

CS向上の取り組みを成長実感につなげる

アンリツは「お客さまから厚く信頼されるCS企業になろう」を行動指針としてCS向上をめざしています。

そこで、2008年1月、CS推進部会の提案で「CS Award」を導入しました。これらの制度の本旨は、CS推進活動の一層のレベルアップですが、表彰されることで従業員が成長実感を得ることにも大きな意味があると考えています。

表彰のきっかけは、お客さまの声(CSアンケート)、従業員による推薦(社内に設置したCSポスト)、部門内の上司・同僚からの申請(職場推薦)の3つで、いずれもCS推進部会で毎月評価・決定しています。

CS AwardにはCS賞とCS貢献賞があります。CS賞は、お客さまに対する取り組みがCS向上に貢献したとき、およびお客さまからのご要望に対し、積極的に改善や開発・提案を行ったときに贈られます。CS貢献賞は、お客さまへの対応、またはCSアンケートのコメントで、個人名を上げてお褒めをいただいたときに贈られます。

企業価値向上の模範となる大賞

初年度(2008年1月～2009年3月)は、CS賞7件、CS貢献賞13件が表彰され、記念すべき第1回CS Award of the yearに輝いたのは、2008年4月にCS賞を受賞した、東北アンリツの全従業員。受賞内容は、東北アンリツを監査されたお客さまから「東北アンリツの皆さんはあいさつを励行されていて、とても気持ちがいい」とお褒めの言葉をいただいたことです。このあいさつ励行は、経営理念で謳う『誠』に通じ、アンリツの価値向上に貢献したことが高く評価されました。

2009年5月に東北アンリツで開催された授賞式では、100名ほどの従業員が参加。アンリツ(株)のCSR担当執行役員小熊 康之が、「この活動の継続によって、東北アンリツからアンリツ全体へ、お客さまへ、そして世界中へと『誠』の輪が広がり、社会に貢献できることを願っています」というメッセージとともに、従業員代表に賞状と盾を贈呈しました。

米国でも、CS表彰を実施

CS表彰を実施しているのは、日本ばかりではありません。米国のAnritsu Companyでは、日本より一足早く、2007年から、顧客満足の改善に貢献した従業員を表彰するために、CAP(Customer Awareness Program)を導入しています。受賞者には副賞として、制度名のとおり、CAP(帽子)が贈られます。導入以来、日本の従業員含め、32名がCAPに輝き、成長実感の醸成とさらなるCS改善意欲の向上につながっています。

副賞のCapを贈られる受賞者

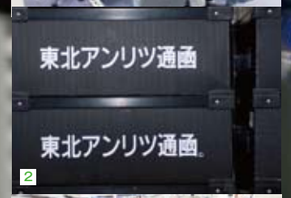
副賞のCap(帽子)

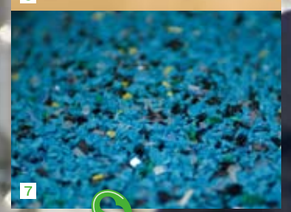
アンリツは、今後も、従業員の地道な活動にも光を当て、積極的に評価することによって、一人ひとりが成長実感を持って仕事に取り組めるよう、支援していきます。

Topics

黄綬褒章受賞者に社長賞授与

アンリツは、国内外のグループ従業員を対象に「社長賞」を授与しています。社長賞は、社長が社業に大きく貢献したと認めることが条件であり、アンリツ最高位の表彰制度です。それだけに極めて難易度が高く、2006年にAnritsu CompanyのStephan J. Vonderachが授与されて以来、社長賞を受賞した従業員はいませんでした。今回、3年ぶりの社長賞受賞者となったのが、アンリツテクマック(株)の栗原 富栄。板金加工分野での卓越した技能と長年にわたる功績を評価され、2005年に「卓越技能者」として、厚生労働大臣賞を受賞しています。さらに2009年4月に、黄綬褒章を受章したことから、社長賞を受賞しました。





1 製品の企画段階から環境負荷低減を図ります
2 サプライヤー様に通い箱の使用を呼びかけています
3 手作りヒーターで製品試験の消費電力を抑えています（東北アンリツ）
4 アンリツ独自のエクセレントエコ製品制度をもうけ、環境負荷の小さい製品開発を推進しています
5 フィルム梱包により緩衝材の使用を抑えています
6 お客さまに省電力型製品をお使いいただくことで、ライフサイクルを通じた環境負荷低減に貢献します
7 プラスチックは色別に分けて細かく分類しています

Key Word 3

ライフサイクルシンキング

情報通信社会の省電力化・省資源化に貢献

アンリツは、製品設計から部品調達、製造、出荷、お客さまでの使用段階、そしてリサイクルまで、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。環境経営の柱の一つである環境配慮型製品の提供を加速させるのはもちろんのこと、社会問題として急浮上しているIT機器の消費電力増加に対しても、独自技術を生かした取り組みを意欲的に進めています。

情報爆発時代のIT機器消費電力

高速・大容量通信サービスの普及にともない、文字情報に加えて音声や動画など格段に大きなデータが幅広くやりとりされるようになってきました。

経済産業省の試算によれば、2025年のインターネットの情報流通量は2006年の190倍に上り、サーバやストレージ、PCなどIT機器が消費する電力量は2400億kWh（日本の総発電量の2割超）になると想定されています。また、中国やインドなどでの通信インフラ整備拡充に伴い、世界全体では急激に消費電力が増大することが懸念されています（下図／経済産業省ホームページより）。

省電力化のカギ、フォトニックネットワーク

IT機器の消費電力増大の原因となっているのが、データの行き先を制御する処理（ルーティング）。光通信システムでは、光信号を電気信号に変換した後、再び光に戻して送り出しており、この処理に電力が使われています。

そこで注目されているのが、光を電気に変換することなくルーティングするオールフォトニックネットワーク。実用化されれば、消費電力を1/2～1/10に削減できると言われています。オールフォトニックネットワークの研究・開発では、伝送された光信号を光のままサンプリング（抽出）し、その品質を評価する光サンプリング技術が必須となっています。

アンリツは世界の測定器メーカーに先駆け光サンプリング技術を確立。2015年頃に主要幹線網で整備される見通しであるオールフォトニックネットワークに向け、光サンプリング技術を利用した計測器の実用化を急ピッチで進めています。

測定高速化による駆動時間の短縮やワンボックス化・小型化で省資源・省電力化

アンリツは、「省電力化」「省資源化」「クリーン化」を軸に環境配慮型製品を開発しています。そのキーワードになっているのが、「測定の高速化」「複数機能のワンボックス化」「計測器自体の小型化」です。

高速化の代表製品が、携帯電話の性能評価で使用されているシグナルアナライザMS269xAシリーズ。従来機種で約30分要していた測定項目を1分以内でおこなえ、お客さまの開発・製造現場の消費電力を約1/50に削減できます。

シグナルクオリティアナライザMP1800Aシリーズは、2台の計測器で提供していた送信と受信機能を一体化（ワンボックス化）し、従来製品の70.0%の体積、66.7%の質量、70.8%の消費電力を達成しました。

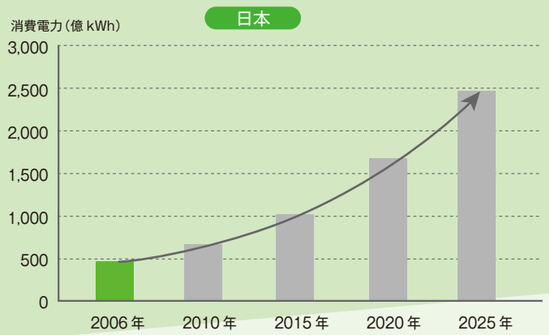
また、計測器の小型化においては、アメリカと日本の開発部門が共同でハンドヘルド計測器の開発に取り組んでいます。どこへでも簡単に持ち運べ、バッテリ駆動を実現した各種ハンドヘルド計測器は、環境に優しい計測器として、屋外・屋内を問わず、有線・無線通信ネットワークの建設・保守の現場で利用されています。

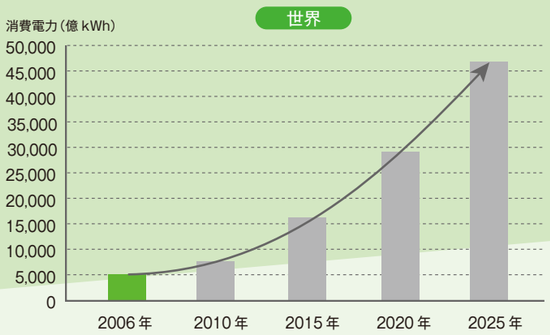
プラスチックを96種類に分別

アンリツ興産（株）では、計測器の再生販売に加え、廃棄製品のリサイクルをおこなっています。たとえばプラスチックの場合、一般的には36～40種類に分けます。しかし、アンリツ興産（株）では、できるだけ燃料ではなく原料としてリサイクルするため、人の手により、種類別・色別の96種類に分別。徹底したリサイクルをおこない、環境負荷低減を推進しています。

「グリーンIT元年」とも言われた2008年。IT業界は「IT機器の省エネ」「IT技術を活用した社会の省エネ」に向け動きだしています。アンリツも「環境世紀」に生きる企業の責任として「原材料」から「リサイクル・廃棄」までのライフサイクルを通した環境負荷低減活動に注力してまいります。

IT関連の消費電力の将来推計





Key Word 4

地域との密着

地域と密着した社会貢献活動をグローバルに推進

アンリツは、ステークホルダーとの対話・パートナーシップを通した社会貢献活動に取り組んでいます。特に、社会貢献活動の重点分野と位置づけている「青少年教育支援」では、本社を置く厚木市の要請に応え、アンリツグループの従業員が先生役となり「おもしろ理科実験教室」を開催しています。また、グローバル社会の一員としての責任を果すために、世界各国のアンリツグループでも、「Sustainability」(持続可能性)に主眼を置いた取り組みを進めています。

おもしろ理科実験教室開催

青少年の理科離れが問題となっている昨今、アンリツが本社を置く神奈川県厚木市では、近隣企業や大学との共同プログラムである「おもしろ理科実験教室」を実施しています。アンリツもこの活動に賛同しており、2007年から、従業員が先生役を務め、「おもしろ理科実験教室」を開催しています。

2009年3月に開催した厚木市立飯山小学校の理科実験教室では、「電池の仕組み」をテーマにしました。子どもたちに興味をもってもらうために、三洋電機株式会社さまのご協力をいただき「人間電池」の実験を授業の目玉にしました。

電池は、2種類の金属と電気を通す液体(電解液)があればできます。そこで、アルミホイルとスプーン、食塩水を利用して生徒自身が電池の一部になり、電子オルゴールを鳴らすという実験を行いました。

飯山小学校の教壇に立ったのは、アンリツネットワークス(株)の相澤 宣男。まず、電池の仕組みを説明したあと、「人間電池」の実験へ。グループに分かれた生徒たちが机を囲み、食塩水をつけた左手をアルミホイルに置き、右手にはスプーンを持ちます。電子オルゴールのリード線のプラス極に一人の生徒のスプーンを、マイナス極をアルミホイルにつないで用意は完了。合図とともに、全員が右隣のアルミホイルにスプーンを押し付け、オルゴールが鳴ると実験成功です。

最初はとまどっていた子どもたちも、一度成功すると、さまざまなアイデアやアレンジで実験が続き、時間が足りなくなるほど盛り上がりました。

寄せられた感想文には、実験のおもしろさやオルゴールが鳴ったときの興奮などがつづられており、「電池の仕組み」を楽しく学べる授業になりました。

おもしろ理科実験教室講師
アンリツネットワークス株式会社
経営管理部長　**相澤 宣男**

社会貢献活動

Anritsu Company「Sustainable Quality Awards」受賞

Anritsu Company(米国)の開発・製造拠点であるモーガンヒルでは、地元の商工会議所が自然環境や地域社会の持続可能性(サスティナビリティ)に責任を持って取り組んでいる企業や団体を「The Sustainable Quality Awards」として表彰しています。選定に際しては、事業活動を詳述した申請書が厳正に審査されました。その結果、「アンリツは、明確なサスティナビリティの方針のもと有線通信・無線通信の分野で多様な事業を展開している未来志向の企業であり、モーガンヒル地域の質の高い生活維持に貢献している」と評価され、Sustainable Quality Awards for Excellenceを獲得しました。

写真左:
Anritsu Company Audit Systems Manager
Cynthia Mann

写真中央:
アンリツ(株) 執行役員 / Anritsu Company社長
Frank Tiernan

写真右:
Anritsu Company Corporate Quality Director
Eric McLean

社会貢献活動

中国四川省大地震で、募金活動と通信インフラの早期復興を支援

2008年5月に中国四川省で発生した大地震。マグニチュード8の揺れに広範な地域で甚大な被害が発生しました。

アンリツは1960年代から中国の通信インフラ整備に貢献しています。2007年には、北京オフィス開設20周年を迎え、中国との関係はますます深まっています。また、四川省成都にビジネス拠点を有していることもあり、中国の現地法人とその従業員をはじめとするアンリツグループ全体で震災からの復興を願い、赤十字社を通して、従業員からの義援金を寄付しました。

また、甚大な被害を受けた通信インフラの早期復興を支援するために、計測器の緊急貸し出しやお客さま所有の製品の無償修理・校正を行いました。

復興支援への取り組みを紹介した当時のホームページ

担当執行役員メッセージ

マネジメントとコミュニケーションを通して、社会の変化をとらえる組織づくりを

アンリツのCSR報告書はこのたび5年目を迎えました。その間、社会情勢はめまぐるしく変化し、ステークホルダーの皆さまが重要と考えるもの、すなわち評価基準や判断基準（クライテリア）の変化の激しさを感じています。次のクライテリアを見極めていくためにも、お客さま・株主・投資家・取引先・地域社会など、すべてのステークホルダーの皆さまと今まで以上にコミュニケーションをはかり、情報を共有していくことが重要だと考えています。

アンリツは、本業を通じて安全・安心で快適な社会構築に貢献し続けることが使命であり、事業活動そのものがCSRであると捉えています。組織全体を貫くひとつの事業戦略を明確にすることにより、社内のマネジメントや活動もステークホルダーの期待に応える方向に向かいます。

例えば、環境への取り組みに関しても、個別の目標を達成することで満足するのではなく、製品のライフサイクル全体にわたり温暖化防止などに取り組むライフサイクルシンキングという大きな戦略に沿って活動することが重要です。

アンリツは、企業向けソリューションを主な事業としているため、当社の事業を知らないステークホルダーの方々には、その事業がどのように社会に貢献しているのかが理解しにくい側面があります。そこで、当社のCSR活動を分かりやすく報告し、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションをはかることによって経営品質を向上させ、アンリツブランドを確立するよう努力していく所存です。今後ともご支援をお願い申し上げます。

アンリツ株式会社
取締役 執行役員　**小熊 康之**

会社概要

本社所在地：神奈川県厚木市恩名 5-1-1
創　　業：1895 年
資 本 金：140 億 49 百万円*1
売 上 高：839 億 40 百万円*2
株 主 数：16,601 名*1
従業員数：3,697 名*3
取引先社数：977 社*4

＊1. 2009年3月31日現在　＊2. 連結：2009 年 3 月期　＊3. 連結：2009年3月31日現在
＊4. 2009年6月12日現在

アンリツ（株）従業員データ

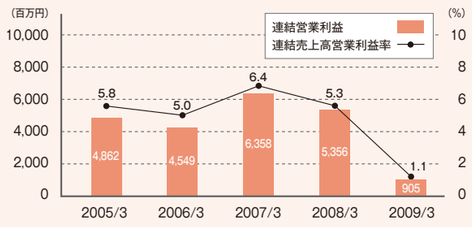
		2006 年度	2007 年度	2008 年度
従業員数 （）は幹部職数で内数	男性	980 (232)	938 (224)	745 (167)
	女性	134　(4)	136　(4)	128　(5)
	計	1,114 (236)	1,074 (228)	873 (172)

グローバルにみた女性の活躍状況

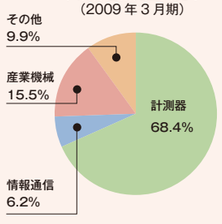
	日本	米州	EMEA*	アジア他	グローバル計
全従業員に占める女性従業員の比率 女性従業員数 ÷ 全従業員数	13%	31%	22%	32%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率 （女性幹部職数 ÷ 女性従業員数）÷（男性幹部職数 ÷ 男性従業員数）	9%	68%	97%	37%	52%

＊EMEA:Europe, the Middle East and Africaの略、欧州・中近東・アフリカの意

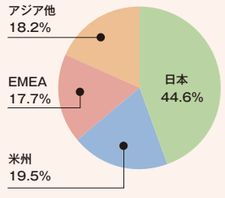
連結営業利益／連結売上高営業利益率



事業別連結売上高比率
（2009 年 3 月期）



地域別連結売上高比率
（2009 年 3 月期）



第三者意見

小熊執行役員様との意見交換、CSR推進部会、CSR推進メンバー会議などの傍聴を通して、貴社のCSR活動の一端を確認させていただきました。CSR経営をグループ一丸となって推進しようとする体制運用に、貴社の実直な姿勢を見てとることができました。

そのような体制をベースに、2008年度は重要性分析を実施されました。CSRは総花的な活動になりがちですが、本来は事業活動と密接に関連付けられた戦略的展開が求められるところであり、重要な課題に焦点を絞って活動を展開しようとする方向性に共感を覚えます。重要性分析の成果として12の重要課題と「4つのキーワード」が抽出されたとのことですが、貴社のCSR活動において重要なものはこれとこれだ、ぐらいの絞り込みがあると、なおよかったのではないかと考えます。

冒頭の各CSR会議体による協議内容が、重要性分析をきっかけに、各部門のCSR活動に強弱のついた形で具体的におとし込まれていくことを、今後の展開として期待します。

報告面においては、ダイジェスト版としての冊子、詳細版としてのwebサイト、という機能分化をスタートされました。特にダイジェスト版は、単にwebサイトからの抜粋、ということでなく、ストーリー性をもった特集をふんだんに取り入れられた点、すばらしいと思います。貴社のCSRへの熱き思いを象徴的なエピソードで紹介することによって、受け手の読者に強いメッセージ性と具体性をもって伝わりやすいと考えるからです。

そのような熱き思いを伝えることができたなら、その次にやってくるのはパフォーマンスデータ含む活動成果をテーマとした、コミュニケーション展開です。この時点でのコミュニケーションツール機能について、webサイトに依存せざるを得ないとするのではなく、CSR報告書ダイジェスト版冊子にも、上述の重要性分析で抽出された活動を評価しうる指標の記述が望まれます。

貴社は平成21年4月27日の「希望退職者募集の結果に関するお知らせ」にて、平成21年3月末時点で、グループ全体で従業員約6%に相当する約250名の人員削減含む、厳しい緊急経営施策を公表されました。

このダイジェスト版でも、戸田社長様がトップメッセージで言及されておられますが、このCSR報告書ダイジェスト版冊子の本文中に、その概要を掲載することがあってよかったのではないか、と考えます。

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役
福島 隆史

編集後記

昨年度第三者意見でご指摘いただいた冊子での情報開示の限界を克服すべく、今回（2009年版）からCSR活動に関する詳細な情報はホームページで報告することにいたしました。本冊子では、4つのキーワードに沿ってCSRへの取り組みを分かりやすくお伝えし、読者の皆さまに興味を抱いていただけることに重点を置き編集することに努めました。

今回、（株）サステナビリティ会計事務所 代表取締役 福島隆史様から第三者意見として3つのご指摘をいただきました。第一番目の重点課題の絞込みについては、2009年度は重要性測定で抽出した課題を深化させ、具体的な事業活動に結び付けていきます。第二に、ダイジェスト版にも活動実績データを明示すべきとの点ですが、今後ステークホルダーの皆さまからのご感想などを踏まえ、検討してまいります。第三番目は、冊子の本文中に雇用調整施策に関する言及が必要ではないかとの点です。この点に関しては、平成21年1月28日「緊急経営施策の策定及び実施に関するお知らせ」および平成21年4月27日「希望退職者募集の結果に関するお知らせ」にて適時開示しております。

今後も福島様からの指摘事項やステークホルダーの皆さまからのご意見などを真摯に受けとめ、活動に反映させながら取り組みを推進していく所存ですので、何卒ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

Anritsu

Discover What's Possible™

アンリツ株式会社
〒243-8555　神奈川県厚木市恩名5-1-1
TEL:046-223-1111
http://www.anritsu.co.jp/

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association
本書は再生紙を使用し、
環境にやさしい大豆油インクで印刷しています